

子どもが主役！地域の宝！

～「みんなの学校 みんなの地域！」木村泰子氏講演会&意見交換会～
9月23日(土) 於：八尾商工会議所

「みんなで作る みんなの学校！」を合言葉に、不登校も、特別支援学級もない大阪市立大空小学校をご存知でしょうか。この学校の取り組みは、テレビでドキュメンタリー番組として放送され、その反響の大きさから映画にもなりました。

そしてこの度、大空小学校の初代校長である木村泰子氏が八尾市でご講演をされました。主催は、つどい登録団体でもある一般社団法人 AN SHINH。その法人の代表と、木村氏のご縁によって実現した講演会でした。主題は、「次世代の子どもたちを地域でどう育て、子どもたちが育つ地域をどうつくっていくか。」学校関係者や子ども食堂、放課後等デイサービスの方など、多くの教育関係者も含め子どもたちに関わる方々が訪れました。



また、当日は大空小学校の卒業生・ユツキ君も来場しました。彼は、木村先生を通じて、集まった教育関係者に、次のような問いを投げかけます。

「大人はどうして変わることができないのか？」

この疑問に対し、講演会に参加された方々が、地域ごとに分かれ、意見交換を行いました。そして発表では、「固定概念に捉われているから」「自分が正しいと思っているから」との声が多くありました。

木村氏は、「これからの地域社会を引っ張っていく子どもたちは『地域の宝』だ」と言います。「先生は地域にとってそこを吹く風のようなもの。子どもたちが住んで、育っていく大地は、地域に住んでいる人によって耕されます。先生は、子どもたちが育つ

大地を耕すお手伝いをしているんです」とお話をされました。

後日、主催団体の代表である、長沢克彦氏につどいがインタビューを行いました。今回の講演会や意見交換会に懸ける想いを尋ねたところ、「小学校は、子どもが最初に地域の良さを社会体験する場所であり、次の世代をつくる大切な6年間です。地域で教育を考える輪を拡げ、連携していければと考えています」と答えてくださいました。



つどい登録団体が、日々活動をステータップさせ、多方面に刺激を与えています。私たちはその後方支援として、今後も市民活動を応援していきます。

つどい交流会

「みんなの学校！みんなの地域！」を考えよう

日時：12月10日(日) 13:30～16:00

場所：センター「つどい」

内容：「みんなの学校～意見交換会」の映像を通して、これからの地域や子育てに何が必要かを共に考え、意見交換を行います。

話題提供者：一般社団法人 AN SHINH

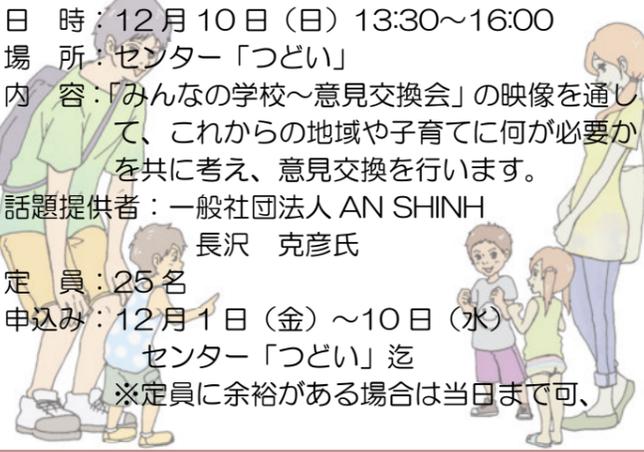
長沢 克彦氏

定員：25名

申込み：12月1日(金)～10日(水)

センター「つどい」迄

※定員に余裕がある場合は当日まで可、



★ つどい相談会-12月17日(日)14:00～16:00

場所：センター「つどい」

内容：NPO法人格の設立、団体の運営などの相談に、つどいスタッフが応じます。

定員：3組(申込順)

申込み受付：12月1日(金)～13日(水)

参加無料。お問合せ・申込は、センター「つどい」迄。TEL072-928-3848

大正川でつながる人と地域！

～大正小学校区まちづくり協議会と魚の泳ぐ大正川をつくる会～

みなさん、大正川の浄化活動を市民活動団体がおこなっていることはご存知ですか？

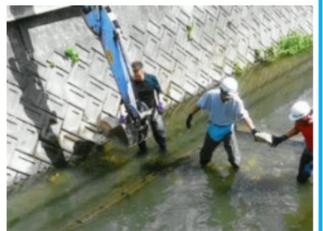
『魚の泳ぐ大正川をつくる会』(以下、T会)は、太田新町の橋付近での花壇設置や、鯉や金魚の放流、八尾市の下水道普及啓発への協力など、大正川整備・美化活動に積極的に取り組んでいる団体です。そのT会が現在、地域活動団体である大正小学校区まちづくり協議会(以下「大正まち協」)の構成団体となり、大正川を魚が棲める魅力的な川に戻すため、日々活動を行っています。

市民活動団体が、校区まちづくり協議会の構成団体となった事例はあまり多くありませんが、T会の活動が大正小学校区(以下、「大正校区」)全体のためになる公益的な活動であること、また、大正まち協が「地域に開かれた協議会」という意識のもと「校区内の活動する団体とつながり、さらに団体同士をもつなげていくこと」を意識されていることが、今

回のまち協への参加につながりました。

これからも、大正まち協とT会のように、各種活動団体が協力していけるような、つながりの輪がどんどん広がっていくと、活動の厚みにつながっていくと思います。

ちなみに、このように活発に活動されているT会ですが、一方で、会員の高齢化で活動が難しくなってきたという課題も抱えています。活動していく上で、同じような課題、悩みを抱える団体も多いと思います。課題解決のためにも、「つどい」では各種団体に、「つどい」登録団体や、交流のある事業者の紹介を行っています。団体同士がつながり、活動を多くの人たちに知ってもらえる事ができれば、次世代の参加者の増加につながると、つどいでは考えています。



歴史民俗シリーズ 八尾なんやかや 65 道鏡伝説 東大阪市足立家の墓碑

Y「引削寺の多数の瓦や塔跡、由義宮に関連する可能性のある掘立柱建物跡などが出土して、報道され、道鏡への関心がフィーバーしています。」
O「引削寺と由義寺は同じですか、それとも違う寺ですか。」
Y「同じだと思います。引削寺は引削氏の氏寺で(道鏡も引削氏の出身)。引削寺のある一帯を引削宮と呼び、称徳天皇は引削宮を由義宮に変え、更に由義宮を西京とします。」

O「ところで、足立家は太田城の石(石垣)奉行ですね。」
Y「そうですね。東大阪市善根寺町(せんこんじちよう)に春日神社があり、その裏山の墓地があり、足立家歴代の墓碑があります。幅約200センチ×高さ70センチの横長の墓碑で、足立家の由来が刻まれています。その内容は

《足立氏は和氣清麻呂を祖先とする。丹波国人の道鏡は称徳天皇の寵愛を受け、権勢を張っていたので、群臣は虎を視るようになった。道鏡は皇位を意図した。天皇は和氣清麻呂に命じ宇佐に使わせたが『皇位継承者は天皇家から』という神宣を持ち返ったので、天皇と道鏡は怒り、和氣清麻呂の役職を解き、名簿から名前を消し、足を斬って、大隅に流した。宇佐神は和氣清麻呂の忠誠心を感じ、小蛇に化けて和氣清麻呂の足をなめた。すると筋骨もとの如くになった。これにより和氣清麻呂を祖先とする家は以後「足立氏」を名乗る。当足立家は和氣清麻呂の子孫で、今後も代々「足立」姓を名乗っていくべきで、その理由は、このような道鏡と宇佐神が絡む伝承がある》

とこのです。ここでは、道鏡は丹波の人、和氣清麻呂の足を斬るという、やはり悪もんです。こんな道鏡伝説はあまりないようで、なぜか解りません。とにかく、道鏡伝説は各地にあるようです。」

O「その墓地に、一度行ってみたいですね。」
Y「東高野街道を北に、瓢箪山、石切を過ぎてさらに北へ、阪奈道路の南の辺が善根寺町です。その春日神社を目当てに行ってください。」
O「秋のハイキングを兼ねて行ってみたいです。」
Y「春日神社は神武天皇の目下越え伝承の道の入り口でもあります。」



(善根寺町春日神社)